スペイン語文法プロフィール

川上 茂信

東京外国語大学外国語学部助教授

1. 文法プロフィールの対象者

この文法プロフィールは、大学専門課程 1 年次の文法授業用のものである。現実には、東京外国語大学でスペイン語専攻の 1 年生が使用している文法教科書の構成に利用されている¹。基本的な想定としては、最初の半年を週 3 回の授業で行ない、テーマ 110 までをカバーし、次の半年は週 2 回の授業で残りのテーマを終えることになる²。実際の教科書構成では、各テーマに 1 節が割り当てられているわけではない。複数のテーマと一緒に扱われていたり (011-012, 013-015 など)、説明的な注で処理されていたり (002, 003 など)、練習問題中に説明抜きで導入されていたり (010) ということがある。

専門課程の授業であり、学生は文法教科書以外の教材 (ネイティブ・スピーカ教員が使用しているスペインで出版された教科書、講読用の教科書) も同時に使用している。従って、文法の授業だけで完結したコースになることは想定されていない。たとえば日常的に必要な性の高い数詞の扱いなどが、かなり周辺的になっている (010, 140)。総合的なコースであれば、より重要な位置を与える必要があるだろう。

レベルは初級であるが、最近の大学授業用の教科書が文法的なレベルをかなり下げている現実と引き比べた場合、中級に属する事項もかなり含まれると言える。

このプロフィールの特徴として挙げられるのが、上で述べたように、2 段構えの構成になっているということである。たとえば、前半のいくつかのテーマに分散して現われる人称代名詞 (001: 主格、030: 直接目的格、033: 間接目的格、048: 前置詞格、056: 再帰代名詞) のまとめが後半の 129 でなされている。また、057 で再帰動詞の用法の 1 つとして導入された「se 受け身」が、132 では受け身文の 1 つとして ser 受け身と対比されながら再度扱われている。関係詞についていえば、最低限の事項が 078 (que)、079 (el que)、080 (el que の独立用法) で扱われ、頻度の低い他の関係詞などを含めた、より高度な内容が後半 (125-128) に回されている。このように、まとめ直しのため、あるいは事項の導入時期の柔軟化のために前半と後半に分かれているが、前半部分で一応のまとまりを持つように設計されている。

2. 記述レベルに関する個別言語的特徴

記述レベルには「形態」「統語」「地域差」を設けた。

¹ 東京外国語大学スペイン語研究室編『スペイン語 1 年教科書』、2001 年版、2002 年版、2003 年版、2004 年版。実際の執筆者は高垣敏博と川上茂信。例文の校閲と一部の練習問題を Víctor Calderón de la Barca が担当した。市販はされていない。

² 現実には予定の分量を授業で終わらせることが出来ていない。教科書の構成を考え直すか、あるいはプロフィール項目自体を見直す必要があるだろう。現在、その両方を考慮しつつ教科書の改訂作業を進めている。

2.1. 形態

スペイン語の初級文法にとって「形態」が持つ重要性は明らかである。特に動詞の活用の習得ぬきには、スペイン語の学習は考えられない。従って、重要な不規則活用を含めて、日常的なスペインに現われる基本的な動詞の活用形は前半のうちにすべて導入されている³。

直説法		接続法	
現在	現在完了	現在	現在完了
点過去	(直前過去)	過去	過去完了
線過去	過去完了		
未来	未来完了	(未来)	(未来完了)
過去未来	過去未来完了	命令形	

残る問題点としては、動詞の活用についてのまとめがテーマとして設定されていないことである。実際に使用している教科書では、相互に関連性の高い直説法現在形と接続法現在形、直説法点過去形と接続法過去形について、後で導入される形式の説明の中で前に覚えたはずの形に対する言及がなされているが、それをより明示的にし、学習の効率を上げるように配慮したい。また、語根母音変化動詞 (035, 053, 073, 087) のように、いくつかの活用形にまたがって特徴的な変化をする動詞も、後半のどこかで1度まとめる意味があるだろう。

動詞以外の形態論的变化について言えば、スペイン語は比較的単純で、融合や縮約 (015, 049, 056) も少ない。名詞の複数形、形容詞の性・数変化、あるいは目的格の人称代名詞で学習者が陥る困難は、形そのものの習得の問題ではなくて、適切な形を使えるかどうかという、むしろ「統語」に属する問題である。

2.2. 統語

「統語」は、実質的には「形態以外の項目」と考えて差し支えない。より細かい分類、例えば「意味」「構文 (パターン)」「表現」などを立てることも可能だろうが、スペイン語初級文法が動詞の活用に集中せざるを得ないこともあり、「統語」を細分化する意味はあまりないだろう。

とは言え、このプロフィールは、日本の大学の文法教科書としては、かなり統語に配慮したものになっている。統語にかかわるテーマが多く採られているのはもちろんだが、より一般的な文法知識についての説明にも踏み込んでいる。昨今の大学生の一般的な文法についての知識がかなり限られたものであることは、現場で教育に携わっている大学教員であれば経験的に確認しているであろう。「主語」や「目的語」といった用語が学習者に理解されていることを前提にした授業はもはや不可能である。したがって、このプロフィールでも、独立したテーマとして立て

³ 日常的なスペイン語には現われず、従ってこのプロフィールにも現われない活用形として、直説法直前過去形、接続法未来・未来完了形がある。

なかったが、「主語とは何か (001)」、「直接目的語とは何か、間接目的語とは何か (034)」、「節とは何か (073)」という項目を入れている⁴。これらを個別言語のテーマとして独立させることは、プロフィール・レベルにおける整合性の問題を引き起こすかも知れない。しかし、例えば「主語」の説明は学習対象言語に即して、学習者の便宜を考えて説明すべきもので、通言語的な、あるいは普遍的な主語概念を提示することを考えているわけではないのだから、「スペイン語学習に必要な主語概念⁵」としてプロフィール化することも不可能ではないだろう。

2.3. 地域差

「地域差」は、いわゆる「スペインのスペイン語」と「中南米のスペイン語」の差異にかかわる。日本におけるスペイン語教育では、常にこの2つの大きなくくりが意識されてきた。初級段階で地域差・バリエーションを導入するのは学習者にとって負担になる面もあるが、特に大学の授業のように、学習者の興味・関心が1地域に限定されない場合、一方に偏らないという配慮は必要である。幸いなことに、文法面でスペインと中南米の違いが問題になるのは限られた部分である。このプロフィールでは、人称代名詞体系 (2人称複数の親称と敬称の区別: 003) と「人間男性を表わす *le* (031)」、「*cuál* (061)」がテーマとして挙げられている。プロフィール化しなかったものとしては「点過去と現在完了 (123)」の使い分けがある。教科書は、基本的にはスペインのスペイン語をベースにし、中南米の体系が異なる事項を注記する方式を採っている。

3. 品詞分類, カテゴリー分類に関する個別言語的特徴

3.1. 品詞

品詞分類には「名詞」「形容詞」「動詞」「副詞」「代名詞」「冠詞」「前置詞」「接続詞」「数詞」の他、「文構造」「句構造」「派生」を立てた。

伝統文法では、一部の代名詞が形容詞的にも使われる。しかし、このプロフィールでは形容詞的な使用については「代名詞」とせずに「形容詞」とした。たとえば指示形容詞 (038) や所有形容詞 (040) がその典型である。疑問詞 (060) や否定語・不定語 (064) に複数の品詞が当てられているのも、これと関係がある。

「文構造」「句構造」は、特定の品詞に結びつけるのが難しいものである。文法全体を品詞ベースで構成するのは望ましくないということでもある。しかし、これらの「品詞」を導入したことで必ずしも分類が自明になったわけではない。

たとえば「*se* 受け身 (057)」は文構造になっているが、再帰動詞の用法という観点から動詞とする考え方もあり得る。教科書でも「再帰動詞の基本的用法 (055)」に続く形で導入されており、*se* 受け身を再帰動詞の用法という連続性の中で見ていることは確かである。しかし、*se* 受け身の導入にあたって課を改め、その同じ課で不定人称を扱うという構成 (059) で、より文構造に力点を置いた扱いをしているので、ここでは文

⁴ 実際の教科書では独立したコラムの形で扱っている。

⁵ さしあたっては、主語は動詞の活用形を決定づけるものである。この概念はスペイン語の主語を十分に説明しない。たとえば初級レベルで学習者が必ず出会う時刻の表現では *Es la una* 「今1時だ」に対して *Son las doce* 「今12時だ」のように、時刻が複数形であれば動詞が複数形になるが、一般的な理解では、時刻の部分の主語ではない。つまり、動詞の活用形に影響を与えるにも拘わらず主語ではない要素が存在するわけだ。しかし、こういう例を一旦無視して動詞の呼応だけに注目することは、「主語」のイメージが希薄な学習者にとって有益な単純化であると考える。

構造としてある。

また、中性の定冠詞 (072) は「冠詞・形容詞」となっている。この時点では、中性の定冠詞 *lo* を紹介し、これが形容詞と組み合わせさせて名詞句を構成するという機能を導入している。しかし、後半の「名詞化 (131)」は句構造として、この中性の定冠詞を含むより広汎な名詞化構造 (定冠詞や形容詞が登場するとは限らない) が紹介されている。名詞化という点に注目するのであれば、一貫性の点から 072 も「句構造」とするべきかもしれないが、前半における導入時の注目点と後半におけるまとめの際の注目点が異なるため、分類が異なるのはむしろプロフィールの実態を反映していると言える。

「文構造」「句構造」という分類項目を立てたメリットは、従って、このプロフィールが持つ具体的な問題点を見やすくしたことにあるとも言える。名詞化という、一貫した観点から中性の定冠詞を扱うことは可能かどうか、検討する価値はあるだろう。再帰動詞という大きなテーマをどう扱うか、並列的に用法を列挙した方がいいのか、いくつかの観点からそれらを「分解」した方がいいのか、分解したものをまとめ直す必要はあるのかなど、考え得る方向はいくつかある。

「派生」については特に問題がない。前 2 者に合わせて「語構造」とした方が一貫性が保てるかもしれない。

3.2. カテゴリー

カテゴリー分類は、まだ暫定的なものに留まる。名詞・形容詞等にかかわる「性」「数」はスペイン語文法における重要な要素で、明確に抽出できる。しかし「主語人称代名詞 (002)」のように、品詞分類との切り分けが上手くできていないものもある。分類項目自体をさらに明確化していく必要がある。

4. 内容に関する個別言語的特徴

4.1. 主語

スペイン語はフランス語や英語と異なり、明示的主語が義務的ではない。これは世界の多くの言語と共通する特徴で、日本人学習者にとって親しみやすいと考えられる。しかし、この事実はむしろスペイン語に厳然として存在する主語に対して学習者が十分に注意を払わないという事態を招きがちである。また、語順が固定的でないことから、主語を文中の位置によって特定することは出来ない。このプロフィールでは初期の段階で主語の概念に触れ、非明示主語の存在に注意を喚起している (001, 002)。また、主語が動詞よりも後に来る現象について「動詞 *gustar* (050)」と「主語後置動詞 (114)」で扱い、その他、「*se* 受け身 (057)」の特徴の 1 つとして取り上げている。

頻度の高い主語後置動詞である *gustar* をなんとか理解して使えるようになった学習者が、後に再帰動詞を学習した時点で *gustar* を誤って再帰動詞として活用させるということは珍しくない。この教科書では主語後置動詞 (050, 114) と、それと密接に関連する目的語の重複表現 (047, 130) を前半と後半で比較的丁寧に説明していることもあり、印象論ではあるが、このような誤りはこの教科書使用以前より減ったよう見える。

他方、一部の主語後置動詞と再帰動詞の間に密接な関係があり (*alegrar/alegrarse, preocupar/preocuparse, etc.*)、その点をプロフィールに組み入れることを考慮する必要はあるかもしれない。

4.2. 再帰動詞

再帰動詞はスペイン語学習者にとって最大の難関のひとつである。主語概念があやふやな学習者にとっては特にそうであろう。このプロフィールでは、再帰動詞の用法を大きく基本的用法 (055) と構文的用法 (057, 058) に分けている。また、後半に主語後置動詞の例として「caerse タイプの再帰動詞 (115)」を取り上げている。最後の caerse タイプは、再帰動詞の導入時に一緒に扱おうとすると、用法の分類に不整合を来すことになるので、個別に扱っている。

基本的用法では、徒に煩瑣な分類に陥らないように、再帰代名詞が直接目的語に由来する「直接再帰」、間接目的語に由来する「間接再帰」、両方の場合がある「相互」、間接目的語 (あるいは与格代名詞) の機能に由来するものの意味論的に独立性の高い「ニュアンスを変える」用法の4つに分けている。

構文的な用法は「se 受け身 (057)」と「se 不定人称文 (058)」である。前者は「受け身文 (132)」で再度取り上げ、他の受け身構文と対比している。後者は導入時に「3 人称複数による不定人称文 (059)」と対比され、さらに「不定人称文のまとめ (134)」でも扱われている。

4.3. ser/estar

スペイン語には繫辞動詞が2つあり、使い分けがある。このプロフィールではまず ser (004, 005) を導入し、少し間をおいて estar (020, 021) を導入し、基本的な使い分けを説明している (023)。従来の文法教科書では ser が「本質的」で estar が「一時的」というような説明が多かった。我々の教科書では、単純でミスリーディングな2項対立を避けるという意図から ser は「主語がどんな人 (物) か、その性質として叙述する」のに対して estar は「主語がどういう状態にあるか、現時点での具体的な事実として記述する」という形で、より多くの言葉を使って説明している。現時点での印象では、この説明は上手く機能しているようである。しかし、説明に使われている表現にあまり拘らないよう、学習者の注意を促していく必要があるだろう。旧来の説明の失敗は、「本質的」「一時的」といった用語そのものの不適切さ以上に、学習者が説明の日本語から得られるイメージに拘泥してスペイン語の実例をしっかり観察しなくなる点に原因があったと思われるからだ。

4.4. 点過去・線過去

スペイン語に存在する2種類の過去形の使い分けは、談話が展開していく中で話者が事態把握の様態を決定していく過程で生じる。その意味では初級文法の範囲を大きく超える難しいテーマである。多くのスペイン語教員の間で、たとえば接続法の用法などよりも格段に難しいという認識が共有されている。このプロフィールでは、前半部においては各形式の基本的な用法の説明 (点過去 052, 線過去 067) を少し間を置いて行ない、後者の導入時に練習問題の形で2形式の簡単な使い分けを確認するに留め、後半 (122) では簡単な使い分けの目安を提示し、頻度の高い誤りを回避するための説明を行なっている。また、この使い分けの習得には時間がかかることも併せて述べている。

教科書では、点過去は「ひとまとまりの出来事」、線過去は現在形が過去に移ったもの、という形で説明し、単純な2項対立的図式を避けている。

4.5. 接続法

接続法の用法は、一般に考えられているほど複雑ではなく、現在そのように言われている原因は、「接続法」という聞き慣れないものに対する

る学習者の拒否反応と、この形式の学習に充てられる時間の不足であろう。このプロフィールでは、専門課程のコースに相応しく、接続法には多くの時間とスペースを割いている。テーマ 084 から 110 までは、命令表現などを含む、何らかの形で接続法と関連するものである。後半では「直説法と接続法 (138)」で使い分けのまとめを行なっている。

用法の分類は従来のもので大きく異なるものではないが、用法ごとに時間をかけるように構成されている。また、現在形で名詞節中の用法 (085-089) を見終えた段階で現在完了形 (090) と過去形 (092) を導入し、それまでの用法の骨格を復習するようになっている。形容詞節・副詞節中の用法は現在形・過去形を取り混ぜて学習する形になっているが、これらの用法においては、現在形と過去形の違いは基本的には時制の一致的なものであり、学習者の負担は大きくないと思われる。非現実的用法 (101, 105) の扱いには工夫の余地があるだろう。

5. 文法プロフィールの課題・問題点

このプロフィールは専門課程を想定しているため、時間の許す限り高度な内容を導入するという、コースの全体構成からの要求がある。一方、同じ文法項目を複数回取り上げることで定着度が高まるという、教科書を使用しての実感がある。教科書は 2001 年度以来改訂を重ねつつ使用しているが、今後、より学習効率の高いテーマ設定・配列を追求していく予定である。このプロフィール特有の問題としては、前半と後半の関係をより合理的なものにしていく必要があるだろう。同一項目を複数回取り上げることにしても、テーマの細分化・階層化を行ない、繰り返しつつ発展させるという構成をより明確にすることで、無駄な重複を避けつつ繰り返しのメリットを活かす方向で改訂を進めたい。

プロフィールの構成から実際の教材の具現化に目を転じると、我々が教科書作成時に特に留意した点は、説明を丁寧にする、例文が文法事項の理解に役立つことである。

現在使用されている大学用の教科書の大半は、文法的な説明を非常に簡単な、時には 1 語によるもので済ませている (前述の「*ser* は本質的、*estar* は一時的」など)。これでは、学習者が得られる手がかりが少なすぎ、かえって説明に用いられた日本語の表現に拘りがちになるという弊害を生んでいる。我々の教科書では、説明は文章で行ない、学習者が説明からある程度のイメージを得られるよう配慮した。

例文が文法事項の理解に役立つように、というのは当然のことではあるが、それほど簡単なことではない。例えば「点過去 (052)」は、名前が瞬時的な出来事をイメージさせることもあり、*Llegué a las 5* 「私は 5 時に到着した」などという例文を思いつきやすい。したがって *Estuve 5 años en España* 「私は 5 年間スペインにいた」のような長期間にわたる出来事が点過去で表わされるという部分が定着しにくい⁶。この点に例文の上で配慮した教科書は多くないが、我々の教科書では、点過去の導入時に長期間の出来事を表わす例文を示し、その後、別のテーマの展開中にも同様の例文を複数回載せている。

これらは、我々のスペイン語研究者としての理論的・記述的主張をもとにしていたり、授業中に学生の反応から気づかされたりした点を教材作成に反映したもののだが、改良の余地は大いにある。我々がまだ気づいていない学習者の困難もあるだろう。教材作成にあたっては、文法事項の取捨選択や提示順のみに気を取られることなく、適切な例文に適切な説明を施すことが重要である。学習効果が上がらない時には、プロフィール構成や学習者の問題に原因を帰する前に例文の適切さを疑ってみてもよいのではなかろうか。

⁶ 学習者はこれを「線過去」で言おうとしがちである。線過去が「継続」を表わすというような説明もこれに一役買っている。

6. 参考文献

- 江藤 一郎, 2003, 『基本スペイン語文法』, 芸林書房.
福嶋 教隆, 1999, 「スペイン語の叙法」寺崎他, 第5章, 75--94.
糸魚川 美樹, 1997, 「スペイン語における女性形職業名詞」『イスパニカ』41, 13--25.
川上 茂信, 1999, 「相互再帰を考える」, 『スペイン語学研究』14, 23--41.
宮城 昇, 1971, 『新基本スペイン文法』, 白水社.
高垣 敏博, 2001, 『新スペイン語入門』, NHK出版.
高橋 覺二, 1998, 『スペイン語表現ハンドブック』, 白水社.
寺崎 英樹, 1998, 『スペイン語文法の構造』, 大学書林.
寺崎 英樹, 1999, 「スペイン語の態」寺崎他, 第3章, 42--58.
寺崎 英樹, 山崎 信三, 近藤 豊 (編), 1999, 『スペイン語の世界』, 世界思想社.
山田 善郎 (監修), 1995, 『中級スペイン文法』, 白水社.

- Alarcos Llorach, Emilio, 1994, *Gramática de la lengua española*, Espasa Calpe.
Bosque, Ignacio; Demonte, Violeta (ed.), 1999, *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa Calpe.
Butt, John; Benjamin, Carmen, 2000, *A new reference grammar of modern Spanish*, Arnold, 3rd edition.
Gómez Torrego, Leonardo, 1997, *Gramática didáctica del español*, SM.
Matte Bon, Francisco, 1995, *Gramática comunicativa del español*, 2 tomos, Edelsa, nueva edición revisada.
Real Academia Española, 1973, *Esbozo de una nueva gramática de la lengua española*, Espasa Calpe.

7. スペイン語文法プロフィール (内容)

記述レベル	番号	文法テーマ	品詞分類	カテゴリー分類	内容
形態	001	主語人称代名詞	代名詞	人称・数・性・格	人称と性・数の概念 男性複数 親称と敬称 主語とは
統語	002	主語人称代名詞の非義務性	代名詞	主語人称代名詞	非明示的主語
地域差	003	vosotros	代名詞	人称・数	2人称複数親称の地域差
形態	004	ser の現在形	動詞	直説法	soy, eres, es, somos, sois, son
統語	005	ser の用法	動詞	用法	ser + 名詞 ser + 形容詞 ser + 前置詞句
統語	006	文の構成	文構造	文構造	主語と動詞の照応 no を使った否定文 疑問詞のない疑問文 疑問詞のある疑問文 付加疑問文
形態	007	名詞の性	名詞	性	男性名詞と女性名詞 語末母音 -o/-a と男女 自然性との関係
形態	008	不定冠詞	名詞	性	un + 男性名詞 una + 女性名詞
形態	009	名詞の数	名詞	数	単数形と複数形 -(e)s 正書法上の注意
形態	010	基数詞	名詞	数	dos, tres, ... once (2-11)

統語	011	存在を表わす文	動詞	用法	hay
形態	012	場所の副詞	副詞	ダイクシス副詞	aquí, ahí, allí
形態	013	定冠詞	冠詞	性・数	男性形・女性形、 単数形・複数形 el, la, los, las
形態	014	アクセントのある a- で始まる女性名詞と定冠詞	冠詞	異形態	el aula, las aulas
形態	015	前置詞と定冠詞の縮約	前置詞・冠詞	縮約・異形態	al (a + el), del (de + el)
形態	016	不定冠詞	冠詞	性・数	男性形・女性形、 単数形・複数形 un, una, unos, unas
統語	017	不定冠詞複数形の用法	冠詞	不定冠詞	不定冠詞複数形の意味
形態	018	tener の現在形	動詞	直説法	tengo, tienes, tiene, tenemos, tenéis, tienen
統語	019	状態表現	文構造	tener を使った表現	tener calor, frío, hambre, etc.
形態	020	estar の現在形	動詞	直説法	estoy, estás, está, estamos, estáis, están
統語	021	estar の用法	動詞	用法	estar + 形容詞 estar + 場所
形態	022	形容詞の性・数	形容詞	性・数	男性形・女性形、 単数形・複数形 前置で語尾脱落する形容詞
形態	023	ser と estar	動詞	用法	ser と estar の対比
形態	024	直説法現在形規則動詞	動詞	直説法	規則動詞 (-ar, -er, -ir)

統語	025	直説法現在の用法	動詞	直説法	現在の出来事 未来の出来事 現在までの継続
形態	026	-iar 型、-uar 型の直説法現在形	動詞	直説法	enviar vs. cambiar conitnuar vs. averiguar
形態	027	接続詞 y, o	接続詞	異形態	e (< y), u (< o)
統語	028	直接目的語の位置	名詞・代名詞	語順	名詞は動詞に後置 代名詞は動詞に前置
統語	029	人を表わす直接目的語	名詞	格表示	a + 名詞
形態	030	直接目的格人称代名詞	代名詞	人称・数・性・格	me, te, lo, la, lo, nos, os, los, las
地域差	031	人間男性を表わす le	代名詞	直接目的語	lo(s)/le(s) の地域差
統語	032	間接目的語	名詞	格表示	a + 名詞
形態	033	間接目的格人称代名詞	代名詞	人称・数・格	me, te, le, nos, os, les
統語	034	直接目的語と間接目的語の併置	代名詞	語順・異形態	間接・直接の順 le(s) (+3 人称) > se 直接目的語とは 間接目的語とは
形態	035	語根母音変化動詞の現在形	動詞	直説法	e /ie 型 (-ar, -er, -ir) o/ue 型 (-ar, -er, -ir) e/i 型 (-ir)
統語	036	主な不規則動詞の現在形	動詞	直説法	1 人称単数が不規則 その他
統語	037	動詞＋不定詞	動詞	用法	querer tener que deber poder

					ir a
形態	038	指示形容詞	形容詞	性・数	男性形・女性形 単数形・複数形
形態	039	指示代名詞	代名詞	性・数	男性形・女性形・中性形 単数形・複数形
形態	040	所有形容詞	形容詞	性・数・異形態	男性形・女性形 単数形・複数形 前置形・後置形
統語	041	所有形容詞	形容詞	用法	前置形と後置形の違い
形態	042	所有代名詞	代名詞	性・数	男性形・女性形 単数形・複数形
形態	043	直説法現在完了形	動詞	直説法	現在完了形の活用
形態	044	過去分詞	動詞	分詞	過去分詞の作り方
統語	045	現在完了の用法	動詞	直説法	現在までの経験 完了した事柄 現在を含む時間内に起こった事柄
統語	046	現在完了と現在	動詞	直説法	現在までの継続は現在形
統語	047	間接目的語の重複表現	名詞・代名詞	格表示	名詞句間接目的語と間接目的格人 称代名詞の重複
形態	048	前置詞格人称代名詞	代名詞	人称・数・性・格	mí, ti, él, ella, usted, nosotros, vosotros, ellos, ellas, ustedes
形態	049	前置詞と人称代名詞の融合	前置詞・代名詞	前置詞と代名詞の融合	conmigo (con + mí) contigo (con + ti)
統語	050	動詞 gustar	動詞	語順	gustar
形態	051	直説法点過去形規則動詞	動詞	直説法	点過去の規則活用

統語	052	点過去の用法	動詞	直説法	過去のひとまとまりの出来事
形態	053	語根母音変化動詞の点過去	動詞	直説法	語根母音変化動詞 (-ir) の点過去
形態	054	点過去の不規則動詞	動詞	直説法	強変化動詞 その他の不規則
統語	055	再帰動詞の基本的用法	動詞	用法	直接再帰 間接再帰 相互 ニュアンスを変える
形態	056	再帰代名詞	代名詞	人称・数・格	me, te, se, nos, os, se sí; consigo
統語	057	se 受け身	文構造	再帰動詞・態	主語は人以外 通常主語後置 行為者を表現しない
統語	058	se 不定人称文	文構造	再帰動詞・不定人称	se + 動詞の3人称単数形による不定人称文
統語	059	3人称複数による不定人称文	文構造	不定人称	動詞の3人称複数形による不定人称文
形態	060	疑問詞	代名詞・副詞・形容詞	疑問詞	quién, cuál, qué, cuánto, cómo, dónde, cuándo, por qué, qué tal
地域差	061	cuál	代名詞・形容詞	疑問詞	cuál の形容詞用法の地域差
統語	062	間接疑問文	文構造	従属 (名詞節)	疑問詞疑問文 疑問詞なし疑問文 (si...)
統語	063	感嘆文	文構造	文構造	疑問詞を使った感嘆文
形態	064	否定語・不定語	代名詞・形容詞・副詞	否定語・不定語	nada/algo, nadie/alguien, ninguno/alguno. tampoco/ también, ni/y

統語	065	否定文	文構造	否定文	否定語の位置と no の有無
形態	066	直説法線過去形	動詞	直説法	線過去形の活用
統語	067	線過去の用法	動詞	直説法	過去の状態 起ころうとしていた事柄 それまでの継続 現在形との平行性
統語	068	優等比較	形容詞・副詞・名詞	優等比較	más ... que más ... de (lo ...) 不規則な比較級
統語	069	同等比較	形容詞・副詞・名詞	同等比較	tan ... como tanto(s)/a(s) ... como
統語	070	形容詞の最上級	形容詞	最上級表現	定冠詞＋比較級 (de ...)
統語	071	不定詞	動詞	不定詞	基本形・完了形 名詞としての不定詞
統語	072	中性の定冠詞	冠詞・形容詞	名詞化	lo + 形容詞
形態	073	現在分詞	動詞	分詞	基本形・完了形 点過去で語根母音変化する動詞の 現在分詞 その他の不規則
統語	074	現在分詞の用法	動詞	用法	副詞的用法 進行形 (estar＋現在分詞) 副詞節相当 (現在分詞構文) 節 (主節・従属節) とは
形態	075	直説法未来形	動詞	直説法	未来形の活用
統語	076	未来形の用法	動詞	直説法	未来 現在の推量
形態	077	直説法過去未来形	動詞	直説法	過去未来形の活用

統語	078	過去未来形の用法	動詞	直説法	過去から見た未来 過去の推量
統語	079	関係代名詞 que	代名詞	従属 (形容詞節)	que の用法 (主語・直接目的語)
統語	080	関係代名詞 el que	代名詞	従属 (形容詞節)	el que の用法 (前置詞と)
統語	081	関係節の独立用法	代名詞	従属 (形容詞節)	el que の独立用法
統語	082	単人称文	文構造	用法	自然現象 (llover, ...) 天候・時 (hacer, ser) 継続表現 (hecer)
統語	083	hay que	動詞	用法	不定人称的な義務表現
形態	084	接続法現在形規則動詞	動詞	接続法	接続法現在の活用
統語	085	名詞節中の接続法 (1)	動詞	接続法	主節が疑い・否定を表わす dudar, no creer...
統語	086	名詞節中の接続法 (2)	動詞	接続法	主節が願望・要求を表わす querer, pedir...
形態	087	語根母音変化動詞の接続法現在	動詞	接続法	語根母音変化動詞 直説法現在との違い (-ir)
形態	088	接続法現在不規則動詞	動詞	接続法	1人称単数形をもとに作るもの その他
統語	089	名詞節中の接続法 (3)	動詞	接続法	主節が感情・価値判断を表わす alegrarse, ser lógico,...
形態	090	接続法現在完了形	動詞	接続法	接続法現在完了の活用
統語	091	接続法現在完了の用法	動詞	接続法	主節 (現在) よりも以前の事柄
形態	092	接続法過去形	動詞	接続法	接続法過去形の活用 -ra 形と -se 形
統語	093	接続法過去の用法	動詞	接続法	主節が過去の場合

					主節が現在で従属節が過去
統語	094	形容詞節中の接続法	動詞	接続法	不定・否定
統語	095	副詞節中の接続法 (1)	動詞	接続法	目的を表わす副詞節 para que...
統語	096	副詞節中の接続法 (2)	動詞	接続法	条件を表わす副詞節 con tal de que...
統語	097	副詞節中の接続法 (3)	動詞	接続法	時を表わす副詞節 (未来的) cuando 直説法／接続法
統語	098	副詞節中の接続法 (4)	動詞	接続法	譲歩を表わす副詞節 aunque 直説法／接続法
統語	099	疑いの副詞と接続法	動詞	接続法	quizás, tal vez 直説法／接続法
統語	100	現実的条件文	文構造	文構造・法	現実的な条件
統語	101	非現実的条件文	文構造	文構造・法	非現実的な条件
形態	102	接続法過去完了形	動詞	接続法	接続法過去完了の活用
形態	103	直説法過去未来完了形	動詞	直説法	過去未来完了の活用
統語	104	現実的願望文	文構造	文構造・法	現実的な願望文
統語	105	非現実的願望文	文構造	文構造・法	非現実的な願望文
形態	106	肯定命令	動詞	命令形	肯定命令形
形態	107	否定命令	動詞	命令形	否定命令形

統語	108	vamos a + 不定詞	動詞	命令形	勧誘表現
統語	109	命令形と目的格人称代名詞	文構造	語順	肯定命令には代名詞を後置 否定命令は通常の語順
統語	110	命令形の用法	動詞	命令形	命令 勧誘 よびかけ
統語	111	目的格人称代名詞の位置	代名詞	語順	定形の直前 不定詞・現在分詞・肯定命令の後 複数可能性がある場合
統語	112	形容詞の位置	形容詞	語順	前置と後置の意味の違い
統語	113	副詞の位置	副詞	語順	動詞の直後が自然な場合
統語	114	主語後置動詞	動詞	語順	主語後置が原則である動詞
統語	115	caerse タイプの再帰動詞	動詞	語順	経験者の意図しない出来事
統語	116	不定詞の機能	動詞	不定詞	名詞としての不定詞 難易構文 (difícil de leer) 疑問詞／関係詞＋不定詞
統語	117	知覚構文	文構造	知覚動詞文	ver, oír + 不定詞 不定詞の自他による代名詞の選択
統語	118	使役構文	文構造	使役動詞文	hacer, dejar + 不定詞 不定詞の自他による代名詞の選択
統語	119	a + 不定詞による命令	動詞	命令形	命令表現
統語	120	完了表現	文構造	完了表現	完了形 acabar de + 不定詞 現在形
統語	121	婉曲表現	文構造	婉曲表現	過去未来形

					接続法過去-ra形 (quisiera) 線過去形
統語	122	点過去と線過去	動詞	用法	点過去と線過去の使い分け
統語	123	点過去と現在完了	動詞	用法	点過去と現在完了の使い分け 使い分けの地域差
統語	124	話法	文構造	従属・法・時制・人称	直接話法・間接話法
統語	125	関係代名詞	代名詞	従属 (形容詞節)	quien el cual
統語	126	関係形容詞	形容詞	従属 (形容詞節)	cuyo que su
統語	127	関係副詞	副詞	従属 (形容詞節)	donde
統語	128	制限用法と非制限用法	文構造	従属 (形容詞節)	制限用法と非制限用法の違い quien の分布
形態	129	人称代名詞のまとめ	代名詞	人称・数・性・格	主格、直接目的格、間接目的格、 前置詞格
統語	130	目的語の重複表現	文構造	語順・格	間接目的語の重複 直接目的語の重複 名詞と代名詞
統語	131	名詞化	句構造	名詞化	定冠詞＋形容詞 定冠詞＋前置詞句
統語	132	受け身文	文構造	態	ser 受け身 se 受け身と ser 受け身の違い
統語	133	能動文による「受け身」的表現	文構造	態	日本語の受け身的な表現に対応する能動文
統語	134	不定人称文のまとめ	文構造	不定人称文	se 不定人称文 3 人称複数による不定人称文 2 人称単数による不定人称文 1 人称複数による不定人称文 uno

統語	135	比較表現	形容詞・副詞・名詞	比較表現	優等比較・劣等比較・同等比較 比較表現の修飾
統語	136	最上級の表現	形容詞・副詞・名詞	最上級表現	最上級 副詞・名詞の最上級相当表現
統語	137	比較級を使った表現	文構造	比較表現	cuanto 比較級 ..., (tanto) 比較級 lo 比較級 posible
統語	138	直説法と接続法	動詞	法	直説法と接続法の使い分け
統語	139	時の表現と前置詞	前置詞	時の表現	前置詞を使わない場合 en と dentro de
形態	140	基数	数詞	性・数	基数詞 性の一致
形態	141	序数	数詞	性・数	序数詞の形態 基本的な用法
統語	142	数量表現	文構造	数量表現	日付・時刻 身長・体重など
形態	143	縮小辞	派生	縮小辞	主な縮小辞 基本的な用法
形態	144	-ísimo	派生	絶対最上級	作り方 基本的な用法
形態	145	主な派生辞	派生	派生	-dad -ción -miento